平成18年度

中四国学生剣道リーダーセミナー

報告書

『学生らしさを見直し、中四国を代表するリーダーを目指そう』

2007年

中四国学生剣道連盟

実施概要

期日：2007年3月10日～12日
会場：国立大洲青年の家
宿泊：国立大洲青年の家
〒795-0001　愛媛県大洲市北只1086

主催：中四国剣道連盟
主管：愛媛大学剣道部

参加者数：男子44名、女子28名
講師：山神眞一（香川大学）
森　正典（愛媛県警）
坪田裕佳（岡山県警）
協賛　　：上野和雄、大森博之、廣畑栄三、矢野宏光、
担当役員：香川直己、木原資裕、榊康守、
実行委員：野亀浩誉（実行委員長：愛媛大学）、以下学生役員11人

日程

10日（土）

12:30～　受付
13:45～　開会式
14:00～　審判者講習・稽古
17:30～　入浴
18:30～　夕食
19:30～　講演会（山神先生・坪田先生）

11日（日）

9:00～　剣道形指導・剣道形選手権
12:00～　昼食
13:30～　講演会（森先生）
14:30～　実技指導・稽古
19:30～　懇親会

12日（月）

9:00～　リーゼミ選手権
12:00～　閉会式

13:00～　昼食・解散

1、審判法実習　（平成19年3月10日）

・審判の注意事項

- ３人合わせて旗を開く。主審は副審が準備できるまで待つ。
- 試合者から絶対に目を離さないようにする。
- 主審、副審を交代するときは旗を巻かず、右手に持つだけでよい。
- 団体戦の場合、最後の選手が礼をするのと同時に審判も礼をして旗を巻いて戻る。（このとき、白旗が見えないようにする。）
- 上段の選手を審判するときは突きなどが見えにくいので、見える位置にいる審判は特に注意する。自分だけでなく、他の審判の位置にも気を使う。
- 審判の移動は素早く行い、移動後は踵と踵をつけておく。
- 審判の位置取りとして、二等辺三角形を描くようにして立つ。
- 反則の場合、主審が「反則1回」（赤のときは右手で、白のときは左手で選手を指して言う。）と言ってから副審は旗を降ろす。
- 鍔迫り合いで約8秒経過してもお互いに動きが見られない場合は、「やめ」をかけてしかるべき対応を行う。
- 旗は中央を持たずに端を持つようにし、人差し指を伸ばして旗の布にかかるようにする。

・新しいタスキの導入

現在のタスキは、背中につけるもので、試合者のタスキが審判者の死角に入った際の、判断など、タスキが見えないということが多々ある。そこで、今研修会で新しいタイプのタスキを導入してみました。（垂の両側に２つのタスキをつける。）

結果、審判をした学生の感想をきいてみたところ

ⅰ：タスキが見やすく判断しやすかった

ⅱ：相打ちのときにどちらが打ったのか見やすかった

ⅲ：タスキがずれていたのが気になった

一部、不安の声もあったが、全体的には「良い」という意見が多かった。

2、１日目講話（山神先生、坪田先生）

① 世界大会のビデオ鑑賞

世界大会に選手として参加され、見事優勝された坪田先生に、「日の丸」を背負うことの重さ、外国人と日本人の違いなど、貴重な話しを織り交ぜての質疑応答をしました。

② 質疑応答

・山神先生

Ｑ：世界大会の雰囲気というのはどのようなものですか？

Ａ：どんなことをしても勝たなければならない、国を代表することの重さを感じました。

・山中（広国大）

Ｑ：緊張したときは、どのようにほぐしていますか？

Ａ：稽古をつけて、自信をつけることを心掛けています。

・木原先輩

Ｑ：世界大会で、優勝したときの、勝つ雰囲気はどのようなものでしたか？

Ａ：上の人は下の人のことを考えてくれ、お互いに助ける気持ちがあった。

・椎葉（高知）

Ｑ：外国人選手と日本人選手の違いは？

Ａ：発声の仕方、間合いの取り方が全く異なり、どんなことをしようと打ってくる。

・石川（香川）

Ｑ：五輪競技に剣道がなることについてどう思うか？

Ａ：一本の基準、伝統という面から、まだ剣道は五輪競技にならないほうが良いと思う。

・黒宮（岡理）

Ｑ：日常生活で、剣道のためにしていることは、なにかありますか？

Ａ：走っています。

・有吉（島根大）

Ｑ：大学のころに、何か特別なことをしましたか？

Ａ：部活が終わった後、女子部員のみんなと走ったり、素振りをしたりしました。

・草野（文教）

Ｑ：外国人選手に対して、どのように対応しましたか？

Ａ：相手は、どのようなことをしても打ってこようとします。相手が攻める前に攻め、気持ちで負けないようにしました。

・佐藤（徳山）

Ｑ：試合に負けて、剣道が嫌になったことはありますか？

Ａ：負けて嫌と思うことはあるが、剣道が好きだからやめたいと思ったことは無いです。

・正木（四国大）

Ｑ：警察官になりたいと思っているのですが、警察の剣道のメニュー？

Ａ：試合前は、一日中剣道をします。その他では、目いっぱい地稽古をします。

・八木（福平）

Ｑ：いままでで一番きつかった稽古は何ですか？

Ａ：警察での円陣稽古です。

・福田（広大）

Ｑ：警察では剣道形をするのですか？

Ａ：形から剣道を始めると、上達が早くなるといわれていることもあり、警察学校に入ると剣道形をします。

・岩田（広工大）

Ｑ：日本の試合と、世界の試合、どのように違いますか？

Ａ：応援して下さる人たちの多さ、活気が違うため、後者の方が、日の丸の重さを感じプレッシャーを感じます。

・庵谷（山口）

Ｑ：男性と女性のちがいは？

Ａ：男性は思い切りがよく、ガンガン打ってくる。女性は、全体として柔らかい。

・川口（鳥取）

Ｑ：何かゲンかつぎはありますか。

Ａ：勝負手拭い、竹刀、服があります。

・井上（広国大）

Ｑ：団体戦の良いところは何ですか？

Ａ：チームで戦うことにより、団結力ができ、勝ったときの喜びが大きいことです。

・木原先輩

Ｑ：今まで最も印象深い試合は何ですか？

Ａ：気づいていたら決勝まで終わり、優勝していた試合です。

・上野先生

Ｑ：外国人選手とうまく試合をする方法は何かあるか？

Ａ：相手に合わせない、のみこまれないように、相手より高い気持ちを持つことです。

・榊先輩

Ｑ：剣道に対する、気持ちのモチベーションを保つ方法は何かありますか？

Ａ：機動隊の練習が終わった後、地元の小中学生と稽古をすることで、初心を思い出し、剣道が楽しいと思い出すことができる。

・大森先輩

Ｑ今後の目標は？

Ａ相手と剣道をして、相手「良かった」といって終われる剣道がしたい。お互いが納得できる剣道がしたい。

・岡崎（広大）

Q自分の長所は何ですか？

A高校時代の恩師に言われた「不用の用」：今は役に立たないことでも、いつかは役に立つと信じて、コツコツと物事をしていくこと。

最後に坪田先生から一言！！

剣風は人をあらわします。いろいろな人の剣道を見ることで、自分の剣道を見直しより豊かな感性を養っていくことが大事です。不用の用というように、コツコツとやることが大事なのではないでしょうか。

③ *山神先生の講話*

剣道を修行するにおいて最も大切なことは

『形、試合、打ち込み稽古』をすることである。

2日目に行う剣道形において最も大切なことは「**息を合わせる**」ことである。

息を合わせることにより、相手の反応動作を察知できるようになる。

講話の時間に、息を合わせるための訓練を行いました。

④ *息を合わせるための訓練*

息を合わせることは、ちょっとした相手の動きの動作を察知することによりできる。

剣道は、攻める者、守る者の攻防であるが、これも一種の息を合わせるということである。

壱：左手で握手、右手でジャンケン。

勝ったものは、右手で相手をたたく。負けたものは左手で防御。

弐：同じく、左手で握手、右手でジャンケン。

足を肩幅に開き、左足前、右足後ろ。

勝ったものは右足で相手の左足を踏む、負けたものは踏まれないように左足を引く。

参：ジャンケンをする

勝ったものは相手の頭を叩く、負けたものは叩かれないようにしゃがむ。

叩くものは本気で叩くのではなく、相手が遅いときは相手に合わすようにして叩かないようにする。

四：相手と握手をして、お互いに握る回数を合わすようにする。

決めた回数分握手している手をお互いに握る。息が合っていたら拍手！！

五：身体が触れることなく、相手の考えている数字を当てる。意思の送り手、受け手となりお互いに息を合わせる。

まとめ

剣道をするにあたって、息を合わせることに大切なのは、まず『息を吐く』ということです。形をする前、稽古をする前には、お互いに息を吐ききって、剣道をすることは、大変ですが大変面白く剣道ができます。２日目の形の練習の際は息を吐ききって練習をする。

3、剣道形指導と剣道形選手権

①剣道形をするにあたって

・木刀を置くときは刃を内側に置く

・身だしなみをきちんとする（袴、道着にシワがよっていないか）

・形と現代剣道の共通点（気・構え・間合い）

・先々の先、後の先を意識する⇒身体を通して頭で覚える。気づいたら打っていた！！

・５つの構え

上段、中段、下段、脇構え、八相の構え

・中段での５つの剣先の付け方

青眼、正眼、星眼、晴眼、臍眼

・間合い（触刃の間：剣先が触れるか触れないか）、気（息を合わせる）

②山神先生と坪田先生の模範

学生の感動

下がるところから構えるまで気が抜けていない。

足、息がそろっていた。

意思疎通ができていた。

③剣道形選手権（別名剣道形シンクロ選手権）

・男女６人組み。

剣道形１，２本目、オリジナルの３本目をして競う。

・オリジナル剣道形の模範として（香川先輩と広畑先輩による）演舞

息を合わせるだけでなく、形の目的・意図をきちんと伝わせるものであり。仕上がりは見事！！でした。この演舞により、学生のハードルがあがり大変だった（某学生より）

・‘形’作り

逆胴を取り入れたもの、二刀に無刀など様々な形が考えられていた。

また、学生同士は真剣に、且つ楽しそうに形を作っており、活気的に意見交換が行われていた。

・発表会

面すりあげ面、小太刀を使った面、面返し胴、面返し逆胴等様々な形の演舞が１１組行われました。

・結果発表

山神賞：面返し逆胴⇒抜き胴

坪田賞：面返し片手面。

特別賞：男子:松原（島根大）

女子:山中（広国大）

・総評

練習というプロセスの中で、多くの交流が取れていたことは大変良いことだった。また、先日述べたように、剣道が上達するにあたって、形、試合、打ち込みは欠かせないものであり、剣道形をすることは実技につながるものがたくさんあることを忘れないでほしい。

・敏捷性アップのトレーニング法

①：野球の内野手のように肩幅に足を開き、腰を落とす。

その体勢を維持し、小刻みに足を動かす。

指示者の合図に従って、身体の向きを上下、左右に変える。

②剣道ゲーム

ジャンケンのように「メン、コテ、ドウ」という掛け声を腹から出し、勝負する。

4、２日目講話（森先生）

大学生に求められる倫理　　講師（森正典先生）

「近頃、大学生の非行が新聞紙上をにぎわせている。大学生と余り世代が変わらない年頃の母親が我が子を殺す、或いは高校生、大学生の年代の者が親を殺害するなど、今や若者の行動が無軌道極まりない状況で、社会不安の一因ともなっている。

元来、剣道修行を志す目的は人間形成にあり、こういった澎湃たる社会の風潮とは切り離された世界という安心感を持っていた。ところが、それが妄想であり思い違いであるという現実が、すぐそこまで忍び寄っている。

世間のこういった風潮は、剣道を志す者の精神も蝕んでいるという兆候が見られる。社会全体が倫理・道徳に欠け、それが常態化しているために、人間形成を志しているつもりの我々の心にも、いつしか甘えが住みつき、やがて、ちょっとした条件で越してはならない一線を越えてしまう結果を招いてしまう。

全日本学生剣道選手権大会決勝戦で、１本リードするや反則まがいの行為を繰り返し、時間まで逃げ切り勝ちを得たという試合が見られた。さらに、同優勝者が大会の閉会式で、式進行の間に腕組みをして終始し、大衆の面前で大会役員から注意を受けるという、剣道を志す者にふさわしくない無様な事態が発生したことはご存じのとおりである。

我が剣道界においても、かような前兆が見られるところから、**剣道修行の精神的支柱である武士道を通じて、人生哲学、倫理、道徳というものを再認識してもらいたい**。」

倫理の意義

(1)　**倫理とは**

「人として守るべき道」を意味する。

人間として社会から求められる行動の在り方を規定するもの。

倫理は「倫」と「理」の二つの語からなっているが、この二つの語は、人間の共同存在、つまり複数の人間が存在しているこの社会を、複数の人が生きていけるような秩序＝道を意味している。

つまり、人間が存在している社会が正しく、かつ快適にあるための理法が倫理だと言える。社会は、本質的にひとつの調和と見なされる。社会の起源の当時から、自然という無秩序に変えて、知的な秩序を持たせたわけである。人間が持つさまざまな能力と欲求を象（かたど）って生きている人間の、さまざまな階級の間に確立された平衡であると説明されている。

～　中略　～

日本にも道徳として倫理の花は咲いていた。武士道しかり、商人道またしかり。工人や農民、漁民に至るまで「道」という倫理をしっかり持っていた。

しかもそれは、職業倫理であるとともに一般倫理でもあった。

「人間生活と職務」評論家・坂田不二夫

大学生と倫理

一般社会には、社会生活を維持していく上で、個人の行為を規制するものとして道徳（＝倫理）が存在している。

大学生も社会の一員であり、近い将来に社会人となる立場にある以上、社会の期待と信頼に応えるため、保持しなければならない道義上の規範が存在する。加えて、大学生は、将来、社会の指導者的立場に置かれることは必定で、大学生である現在からより厳しい倫理上の義務を負わされているのである。

大学生の倫理観の現状を窺わせるもの

某名門大学の集団暴行事件など

剣道を志す大学生へ

武士道を踏まえて鍛えて欲しいこと（強い倫理観の醸成）

(1)　自覚

このごろの奉公人（武士）を見ると、目の付け所がひどく低俗である。まるでスリのような目つきをしている。おそらく、あまりにも欲得ずくであったり、利口ぶっていたりするためであろう。少しは腹がすわっている者かと思うと、ただ格好をつけているだけだったりする。

我が身を主君に捧げ、生きながら幽霊となって、絶えず主君のことを考え、きちんと仕事をし、鍋島藩をゆるぎないものにする。ここに目を付けなければ、奉公人とは言えない。この心構えについては、上下の区別はない。ここに腰を据えて、例え神仏にさそわれようが動揺しないと覚悟を決めなければならぬ。（葉隠聞書第１～36）

【教訓】

自覚

形（表れ）～礼儀正しさ

内心（志）～社会に役立つ

覚悟（自覚）～動揺しない

(2)　責務

（武士道は）今なお我々の間における力と美との活ける対象である。それはなんら手に触れうべき形態を取らないけれども、それにかかわらず道徳的雰囲気を香らせ、我々をして今なおその力強き支配のもとにあるを自覚せしめる。（中略）

武士がその職業においてまた日常生活において守るべき道を意味する。一言にすれば「武士の掟」、すなわち武人階級の身分に伴う義務（ノーブレス・オブリージュ）である。（中略）

武士道は上述のごとく道徳的原理の掟であって、武士が守るべきことを要求されたもの、もしくは教えられたものである。　（矢内原忠雄訳、新渡戸稲造著「武士道」第１章）

【教訓】

○　日本人の精神そのもの

○　ノーブレス・オブリージュ（身分に伴う義務）

○　義務でなく責務

(3)　五輪・五常

武士道の三つの魂　～　仏教・神道・儒教（新渡戸稲造「武士道」）

仏教　～　運命に任すという平静なる感覚、不可避に対する静かなる服従、危険災禍に直面しての沈着、生を賤しみ死を親しむ心、仏教は武士道に対してこれらを与えた。

神道　～　神道の教義によりて刻み込まれた主君に対する忠誠、祖先に対する尊敬、親に対する孝行は他のいかなる宗教によっても教えられなかったもので、これによって武士道の傲慢なる性格に服従性が賦与せられた。

儒教　～　孔子や孟子の唱えた倫理道徳観、即ち、「人として守るべき五つの道（五輪）」、具体的には君臣の義、父子の親、夫婦の別、兄弟の長幼の序、朋友の信。また、「人が守るべき五つの道徳（五常）」、仁、義、礼、智、信を説く。

この五輪・五常が武士道の骨格となっている。

(4)　良心

義は武士の掟中最も厳格なる教訓である。武士にとりて卑劣なる行動、曲がりたる振る舞いほど忌むべきものはない。

（矢内原忠雄訳、新渡戸稲造著「武士道」第３章）

義は人が喪われたる楽園を回復するために歩むべき直ぐかつ狭き路である。　（孟子）

良心の掟

義のことを「人としての正しい道」といっても、それは個人的な観念であり、いわば「道徳」である。実行しなければ罰せられるといった「法律」とは違う。法律ならば「してはいけないこと」が法文化されていて明確にわかるが、道徳は人間の内面に据えられた「良心の掟」であり、その基準は個人によって違うからである。

では、良心の掟とされる普遍的な道徳とは何か。

- ○　人にやさしくあれ
- ○　正直であれ
- ○　約束を守れ
- ○　弱い者をいじめるな
- ○　卑怯なことをするな
- ○　人に迷惑をかけるな

などがあげられ、人が人として行わなければならない良心のことだ。だからこれを犯すとき、われわれは「良心の呵責」に襲われるのである。　（岬龍一郎著「新渡戸稲造　美しき日本人」）

【教訓】

- ○　良心の掟

(5)　勇・敢為堅忍（かんいけんにん）の精神

勇気は、義のために行われるのでなければ、徳の中に数えられるにほとんど値しない。孔子は「論語」において、その常用の論法に従い消極的に「勇」の定義を下して、「義を見てせざるは勇なきなり」と説いた。この格言を積極的に言い直せば、「勇とは義（ただ）しきことをなすことなり」である。

（矢内原忠雄訳、新渡戸稲造著「武士道」第４章）

【教訓】

○　義を見てせざるは勇なきなり（論語）

○　成せば成る 成さねば成らぬ何事も 成さぬは人の成さぬなりけり

○　浩然の気

(6)　仁・惻隠の心

仁は柔和なる徳であって、母のごとくである。進直（しんちょく）なる道義と厳格なる正義とが特に男性的であるとすれば、慈愛は女性的なる柔和さと説得性を持つ。（中略）

幸いにも慈愛は美であり、しかも希有ではない。「最も剛毅なるものは最も柔和なる者であり、愛ある者は勇敢なるものである。」とは普遍的に真理である。

（矢内原忠雄訳、新渡戸稲造著「武士道」第５章）

(7)　誠

虚言遁辞（とんじ）はともに卑怯とみなされた。武士の高き社会的地位は、百姓町人よりも高き信実の標準を要求した。「武士の一言」と言えば、その言の真実性に対する充分なる保障であった。武士は、然諾（ぜんだく；よしとして受け入れること）を重んじ、その約束は一般に証書によらずして結ばれかつ履行せられた。証文を書くことは、彼の品位にふさわしくないと考えられた。

（矢内原忠雄訳、新渡戸稲造著「武士道」第７章）

(8)　名誉

廉恥心は少年の教育において養成せらるべき最初の徳のひとつであった。「笑われるぞ」「恥ずかしくないか」等は、非を犯せる少年に対して正しき行動を促すための最後の訴えであった。少年の名誉心に訴うることは、あたかも彼が母胎の中から名誉をもって養われていたかのごとく、彼の心情の最も敏感なる点に触れたのである。

（矢内原忠雄訳、新渡戸稲造著「武士道」第８章）

(9)　忠義

頼山陽はかれの偉大なる「日本外史」において、父の反逆行為に関する平重盛胸中の苦闘をば、惻々たる言葉をもって述べている。「忠ならんと欲すれば孝ならず、孝ならんと欲すれば忠ならず」。哀れむべし重盛！彼れ後、魂を傾けて死を天に祈り、純潔と正義の住難きこの世より開放せられんことを願いしをみるのである。

（矢内原忠雄訳、新渡戸稲造著「武士道」第９章）

(10)　克己

一方において勇の鍛錬は呟（つぶや）かずして忍耐することを銘記せしめ、他方において礼の教訓は我々自身の悲哀もしくは苦痛を露（あら）すことにより他人の快楽もしくは安静を害せざるよう要求する。

（矢内原忠雄訳、新渡戸稲造著「武士道」第 11 章）

非違非行を避けるために

(1)　強い倫理観の醸成

部活の幹部

①　剛毅な責任感　～　自責に堪える自己研鑽

②　重厚にして恭謙　～　人間としての実力

実力の貧寒な者ほど自己顕示

足下、自分を大切に

③　公正にして恕　～　客観的に寛大に

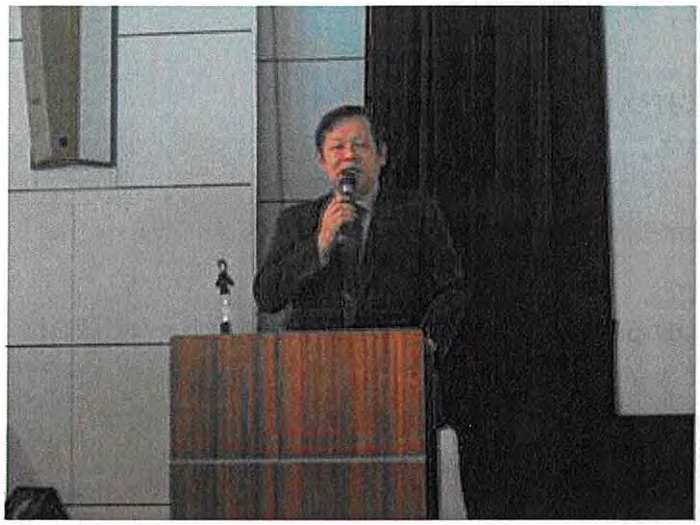
私心を去り物欲を遠ざけ

精神心情を純粋に

自分で考え　自分で行動する

(2)　非違非行に繋がる条件の排除

ア弱さの自覚　イ条件の排除　ウ組織としての人間教養



5、2日目午後実技指導

①準備運動（素振り）

②実技指導Ⅰ（山神流）

9歩の間合いから息を合わせて、礼をしてからそんきょ。

・遠間から発声→すり足で一歩入って、大きく面→しっかり残心。

遠間：気を十分に充実させる。（自分を創る）

残心：打った後に竹刀を上げないようにする。（剣先が自分に見える高さまで）

・触刃の間からお互いに発声→大きく面→しっかり残心。

触刃：竹刀が触れるか触れないかという間合い。「行くぞ！！」という気を充実させる。

お互いに気を充実させることが大切である。

・お互いに中心線を意識して面打ち

打ち立：打った後に横に流れないように、まっすぐ打つ。

元立ち：避けるのをギリギリまで我慢して、サッと横に避ける。

・表と裏の面打ち

表からでも、裏からでも中心線を意識して打つ。

相手の力を利用した打ちをすることができる。

③実技指導Ⅱ（坪田流）

・相面

相手の目を突き刺すように右こぶしをぶつける。右手の親指と人差し指を突き刺すような意識を持つことによって、打突後、剣先が上がることがなくなる。

練習時からお互いに一本取れるように打つ。旗が３本上がるように打つ。

左足のタメを作る。（固すぎず、弱すぎない、柔軟なヒザのタメが発射台である）

打突後の平行移動具合。（腰が上下せずに移動する）

④坪田先生の模範試合

元立ち：坪田裕佳

打立ち：佐藤（徳山）、井上（吉備国）、川口（鳥取）、石川（香川）、小窪（聖カ）

感想

坪田さんの試合を見た感想は「すごい！！」の一言です。中四国を代表する女子選手に何もさせることなく自分の間合いで試合をしていました。技を打った後の残心では、すでに次の技の構えができており、まったくスキが無かったようでした。実際に試合を行った選手からもすごかったという返事がかえってきて、学生一同、坪田先生の剣道に圧巻されました。

⑤山神先生の打ち込み、かかり稽古

元立ち：山神眞一先生

打立ち:古川（山口）、松田（岡山）、土手（鳴教）、塩田（広国）、動道（広国学）、田中（福山）、井上（岡理）、磯中（愛大）、柳生（福平）、松原（島根）

打ち込み稽古とかかり稽古の違い

打ち込み稽古：**元立ちが**あけたところを、確実に打つ。

かかり稽古：**かかる者が**、崩し、スキをつき、すばやく確実に打つ。

感想

打ち込みの後に、休憩なしにかかり稽古をしていたので大変そうだった。かかっていくもの必死さが観ている者へも伝わってきて、良い見取り稽古ができてよかった。

⑤３分の回り稽古

6、第10回リーゼミ選手権（平成19年3月12日）

第10回リーゼミ選手権大会（平成19年3月20日）

	選手名	大学名
1	清田	鳥取大
	山本	広島工大
	塚田	広島国際大
2	福田	広島大
	益田	広島経大
	岡崎	広島大
3	浦田	徳山大
	田中	福山大
	白井	広島国際大
4	中村	鳥取大
	内田	岡山県立大
	桐田	高知大
5	竹山	岡山県立大
	川岡	広島工大
	安味	島根大
6	高下	理山平成大
	井上	吉備国際大
	郷井	広島大
7	松田	岡山大
	宮崎	岡山理大
	瀬中	愛媛大
8	関田	岡山理大
	秋葉	高知大
	吉田	島根大
9	岡田	愛媛大
	櫻谷	山口大
	高原	山口大
10	北村	山口大
	国土	鳥取大
	小陣	聖カタ大
11	勅使	広島経大
	谷江	清心女大
	経越山	園教大
12	野津	愛媛大
	川口	鳥取大
	堀上	岡山県大
13	堀田	聖カタ大
	松原	島根大
	浅越	岡山大
14	木本	岡山理大
	常野	文教女大
	柳生	理山平成大
15	村上	松山大
	佐々木	広島工大
	吉田	吉備国際大
16	兼清	岡山理大
	正木	四国学院大
	上田	文教女大
17	佐藤	徳山大
	松下	香川大
	堀田	広島国際大
18	井上	岡山理大
	小笠原	清心女大
	町田	岡山県大
19	藤倉	岡山県立
	杉山	理山大
	土手	園芸教大
20	堀宮	岡山理大
	川端	松山大
	横山	川崎医大
21	古川	山口大
	岩田	広島工大
	神崎	高知大
22	下田	愛媛大
	山地	香川大
	山中	広島国際大
23	西田	広島大
	坂本	徳山大
	石川	香川大
24	野中	岡山理大
	櫻谷	川崎医大
	久常	岡山大

優勝

佐藤ひとみ（徳山）、松下寛長（香川）、塩田十（広島国際大）

準優勝

松田祐輝（岡山大）、磯中竜一（愛大）、宮崎唯（岡山理大）

第３位

高下貴之（福山平成）、井上千栄（吉備国）、桜井宏樹（広島大）

下田亮一（愛媛大、）山地裕士（香川大）、山中悠記子（広島国際）

優秀選手

男子：松下寛長（香川）

女子：佐藤ひとみ（徳山）

決勝戦

赤	磯中（愛媛大）	宮崎（岡理）	松田（広島）	勝本数/勝者数
		○		1/0
白		メ　メ	○	3/2
	塩田（広国大）	松下（香川）	佐藤（徳山）	

7、アンケート集計

回答枚数３１枚

①開催時期について

良い9、まあ良い12、普通6、あまり良くない4、悪い0

・忙しい時期のため、早いほうが良い。

・卒業式や大学の合宿などと時期が重なり行けないところがある。

・季節的にも良いと思う

②日数について

長い8、適切21

・一泊でも良い

③開催場所について

良い1、まあ良い2、普通6、あまり良くない15、悪い5

・交通の便が悪い

・本州でしてほしい

・山陰からだととても遠い

・ごはんがおいしい

・電波が無い。

④企画内容について

良い12、まあ良い8、普通8、あまり良くない2、悪い0

・形をしっかり教えてもらいたかった

・オリジナルの形が面白かった

・形や坪田さんとの話しなど普段できないことができ、とてもよかった。

・周り稽古だったため、やりたい人と稽古できなかったため自由稽古のほうが良い。

・懇親会での一発芸はいらない。

・内容的には良いものである。

・坪田先生との話し・稽古はとても良かった

・山神先生の話がとても面白かった。

・体育館の床が固く、稽古しにくかった。

・先生方の練習や講話はとてもわかりやすかった。

・充実して剣道の稽古ができたと思います。

５参加費用について

高い14、適切16

・参加費は適切だと思う。

・交通費がとても高いので、もっと交通費が安い場所が良い。

・交通費が高いので、参加費一万がとちょうど良かったです。

・交通費が高すぎます。

平成18年度リーダーセミナーを終えて

中四国学生剣道連盟　野亀　浩誉

まず、はじめに、私の遅刻により、みなさまを待たせてしまい、その30分の遅刻が、リーゼミ全日程まで影響して、先生、参加者、役員の方々に多大な迷惑をおかけしたことを、お詫び申し上げます。

リーゼミを振り返ってみると、、、

1日目：リーゼミの始まりは、私の遅刻から始まってしまいました。この遅刻により、皆様方を待たせてしまったことが、今回の一番の反省になります。
一日目は、審判者講習を行い、木原先輩・榊先輩・香川先輩・広畑先輩に審判の立ち位置、一本の基準など基本的なことから応用的なことまで、普段の稽古では学ぶ機会が少ないことを教えていただきました。これは、これから剣道を続けていくにあたって、とても貴重なことだと私は思います。
夕食後の講話では、山神先生・坪田先生に大変貴重な話をきくことができ、印象深かったです。また、「息を合わせる」ための訓練では、学生が一丸となって取り組むことができとても楽しく取り組むことができました。

2日目：午前には、剣道形の講習を行い、ここでは、山神先生が考案した、「剣道形シンクロ選手権」なるものを行い、学生も真剣に、また、楽しそうに形を作っていたことは、普段の形の講習とは異なっていました。
昼の、森先生での講話は、リーダーになる者の心構えとは、何なのか、学生に求められる倫理とは何かなのかを教えてもらい、とても貴重な話を聞くことができました。
午後の稽古では、坪田先生と学生の試合が最も印象深く、世界のレベルを目の当たりにし、私は言葉を失ってしまいました。

3日目：いろいろな勉強をなしてもらったリーゼミの最終日、一部の学生は、前日の交流会の疲れが残っていたが、多くが良い試合をしていて、とてもよかったです。

最後に、今回のリーゼミを開催するにあたって、私一人の力では、リーゼミを無事終えることはできませんでした。木原先輩・榊先輩・香川先輩をはじめ、多くの方からアドバイスをいただき、また、学生役員のみんなには、この実行委員長を支えてもらったからこそ、本当になんとか無事にリーゼミを終えることができたのだと思います。
本当に、先生・役員の方には、感謝しなければなりません、この場をお借りして、「ありがとうございました。」という感謝を述べたいと思います。

以上

平成19年3月11日
リ ー ゼ ミ 資 料

大学生に求められる倫理　　講師（森正典先生）

１　趣旨

萬里一条轍（ばんり　いちじょうの　てつ）

２　倫理の意義

⑴　倫理とは

「人として守るべき道」を意味する。
人間として社会から求められる行動の在り方を規定するもの。

倫理は「倫」と「理」の二つの語からなっているが、この二つの語は、人間の共同存在、つまり複数の人間が存在しているこの社会を、複数の人が生きていけるような秩序＝道を意味している。
つまり、人間が存在している社会が正しく、かつ快適にあるための理法が倫理だと言える。社会は、本質的にひとつの調和と見なされる。社会の起源の当時から、自然という無秩序に変えて、知的な秩序を持たせたわけである。人間が持つさまざまな能力と欲求を象（かたど）って生きている人間の、さまざまな階級の間に確立された平衡であると説明されている。
～　中略　～
日本にも道徳として倫理の花は咲いていた。武士道しかり、商人道またしかり。工人や農民、漁民に至るまで「道」という倫理をしっかり持っていた。
しかもそれは、職業倫理であるとともに一般倫理でもあった。
「人間生活と職務」評論家・坂田不二夫

⑵　社会生活における倫理の必要性

⑶　法律との関係

３　大学生と倫理

４　大学生の倫理観の現状を窺わせるもの

（新聞記事参照）

５　剣道を志す大学生へ

武士道を踏まえて鍛えて欲しいこと（強い倫理観の醸成）

⑴　自覚

このごろの奉公人（武士）を見ると、目の付け所がひどく低俗である。まるでスリのような目つきをしている。
おそらく、あまりにも欲得ずくであったり、利口ぶっていたりするためであろう。少しは腹がすわっている者かと思うと、ただ格好をつけているだけだったりする。
我が身を主君に捧げ、生きながら幽霊となって、絶えず主君のことを考え、きちんと仕事をし、鍋島藩をゆるぎないものにする。ここに目を付けなければ、奉公人とは言えない。この心構えについては、上下の区別はない。
ここに腰を据えて、例え神仏にさそわれようが動揺しないと覚悟を決めなければならぬ。（葉隠聞書第１～36）

【教訓】
自覚
形（表れ）～礼儀正しさ

内心（志）～社会に役立つ

覚悟（自覚）～動揺しない

⑵　責務

（武士道は）今なお我々の間における力と美との活ける対象である。それはなんら手に触れうべき形態を取らないけれども、それにかかわらず道徳的雰囲気を香らせ、我々をして今なおその力強き支配のもとにあるを自覚せしめる。（中略）
武士がその職業においてまた日常生活において守るべき道を意味する。一言にすれば「武士の掟」、すなわち武人階級の身分に伴う義務（ノーブレス・オブリージュ）である。（中略）
武士道は上述のごとく道徳的原理の掟であって、武士が守るべきことを要求されたもの、もしくは教えられたものである。
（矢内原忠雄訳、新渡戸稲造著「武士道」第１章）

【教訓】
○　日本人の精神そのもの
○　ノーブレス・オブリージュ（身分に伴う義務）
○　義務でなく責務

⑶　五輪・五常

武士道の三つの魂　～　仏教・神道・儒教（新渡戸稲造「武士道」）
仏教　～　運命に任すという平静なる感覚、不可避に対する静かなる服従、危険災禍に直面しての沈着、生を賤しみ死を親しむ心、仏教は武士道に対してこれらを与えた。
神道　～　神道の教義によりて刻み込まれた主君に対する忠誠、祖先に対する尊敬、親に対する孝行は他のいかなる宗教によっても教えられなかったもので、これによって武士道の傲慢なる性格に服従性が賦与せられた。
儒教　～　孔子や孟子の唱えた倫理道徳観、即ち、「人として守るべき五つの道（五輪）」、具体的には君臣の義、父子の親、夫婦の別、兄弟の長幼の序、朋友の信。また、「人が守るべき五つの道徳（五常）」、仁、義、礼、智、信を説く。
この五輪・五常が武士道の骨格となっている。
（志村史夫著「いま武士道を読む」）

【教訓】
○　武士道の淵源

○　今も続く儒教の教え

(4)　良心

義は武士の掟中最も厳格なる教訓である。武士にとりて卑劣なる行動、曲がりたる振る舞いほど忌むべきものはない。

（矢内原忠雄訳、新渡戸稲造著「武士道」第３章）

義は人が喪われたる楽園を回復するために歩むべき直ぐかつ狭き路である。

（孟子）

良心の掟

義のことを「人としての正しい道」といっても、それは個人的な観念であり、いわば「道徳」である。実行しなければ罰せられるといった「法律」とは違う。法律ならば「してはいけないこと」が法文化されていて明確にわかるが、道徳は人間の内面に据えられた「良心の掟」であり、その基準は個人によって違うからである。

では、良心の掟とされる普遍的な道徳とは何か。

- ○　人にやさしくあれ
- ○　正直であれ
- ○　約束を守れ
- ○　弱い者をいじめるな
- ○　卑怯なことをするな
- ○　人に迷惑をかけるな

などがあげられ、人が人として行わなければならない良心のことだ。だからこれを犯すとき、われわれは「良心の呵責」に襲われるのである。

（岬龍一郎著「新渡戸稲造　美しき日本人」）

【教訓】

- ○　良心の掟

(5)　勇・敢為堅忍（かんいけんにん）の精神

勇気は、義のために行われるのでなければ、徳の中に数えられるにほとんど値しない。孔子は「論語」において、その常用の論法に従い消極的に「勇」の定義を下して、「義を見てせざるは勇なきなり」と説いた。この格言を積極的に言い直せば、「勇とは義（ただ）しきことをなすことなり」である。

（矢内原忠雄訳、新渡戸稲造著「武士道」第４章）

【教訓】

- ○　義を見てせざるは勇なきなり（論語）
- ○　成せば成る 成さねば成らぬ何事も 成さぬは人の成さぬなりけり
- ○　浩然の気

(6)　仁・惻隠の心

仁は柔和なる徳であって、母のごとくである。進直（しんちょく）なる道義と厳格なる正義とが特に男性的であるとすれば、慈愛は女性的なる柔和さと説得性を持つ。（中略）

幸いにも慈愛は美であり、しかも希有ではない。「最も剛毅なるものは最も柔和なる者であり、愛ある者は勇敢なるものである。」とは普遍的に真理である。

（矢内原忠雄訳、新渡戸稲造著「武士道」第５章）

【教訓】

○　武士の情け

○　惻隠の情

(7)　誠

虚言遁辞（とんじ）はともに卑怯とみなされた。武士の高き社会的地位は、百姓町人よりも高き信実の標準を要求した。「武士の一言」と言えば、その言の真実性に対する充分なる保障であった。武士は、然諾（ぜんだく；よしとして受け入れること）を重んじ、その約束は一般に証書によらずして結ばれかつ履行せられた。証文を書くことは、彼の品位にふさわしくないと考えられた。 （矢内原忠雄訳、新渡戸稲造著「武士道」第７章）

【教訓】

○　虚言・遁辞

○　武士道と商人道

武士は喰はねど高楊子

○　誠

行動基準としての「誠」は、「全力を打ち込むこと」で、誠心誠意という言葉のとおり「己を尽くす」という一事に極まる。

(8)　名誉

廉恥心は少年の教育において養成せらるべき最初の徳のひとつであった。「笑われるぞ」「恥ずかしくないか」等は、非を犯せる少年に対して正しき行動を促すための最後の訴えであった。少年の名誉心に訴うることは、あたかも彼が母胎の中から名誉をもって養われていたかのごとく、彼の心情の最も敏感なる点に触れたのである。 （矢内原忠雄訳、新渡戸稲造著「武士道」第８章）

【教訓】

○　廉恥心

○　兄弟喧嘩等で学ぶこと

○　名誉で増幅する生き甲斐

人を成長させる誘因の一つは名誉を求める素直な気持ちであり、
名誉は人々にひとしお生きている張り合いを増す。

(9)　忠義

頼山陽はかれの偉大なる「日本外史」において、父の反逆行為に関する平重盛胸中の苦闘をば、惻々たる言葉をもって述べている。「忠ならんと欲すれば孝ならず、孝ならんと欲すれば忠ならず」。哀れむべし重盛！彼れ後、魂を傾けて死を天に祈り、純潔と正義の住難きこの世より開放せられんことを願いしをみるのである。 （矢内原忠雄訳、新渡戸稲造著「武士道」第９章）

【教訓】

○　節義の士（節義の嗜み）　～　組織人としての在り方

節義＝節操を守り正道を踏み行うこと

口に偽りを言わず、利己的な態度を構えず、心は素直にして外に飾りなく、作法を乱さず、礼儀正しく、上にへつらわず、下を侮らず、他人と交わした約諾（やくだく）を違えず、人の艱難を見捨てず、己がすまじきことをせず、死すべき場をば一歩も退かず、常に正義と道理を重んじ、その心は鉄石のごとく強固であり、また穏和慈愛にしてもののあわれを知り、人に情けあるを節義の士と申すのである。

（室鳩巣「明君家訓」）

(10)　克己

一方において勇の鍛錬は呟（つぶや）かずして忍耐することを銘記せしめ、他方において礼の教訓は我々自身の悲哀もしくは苦痛を露（あら）すことにより他人の快楽もしくは安静を害せざるよう要求する。

（矢内原忠雄訳、新渡戸稲造著「武士道」第 11 章）

【教訓】

○　克己

鍛錬に耐える個人的な資質

意志の力で自分の衝動、欲望、感情等を抑えること

人の世に処するというものは、苦しいことも嬉しいこともいろいろあるものだ。その苦しいことというものに耐えなければ、忠孝だの、国家の経綸だのといったところでとうてい成し遂げられるものではない。この苦しいことに堪えるということは、平成から錬磨しておかなければ、その場合に限ってできるものではない。

（長岡藩家老河井継之介）

誰に対戦したいというものはない

自分が向上すれば必ず打てる　　（松井秀喜）

６　非違非行を避けるために

(1)　強い倫理観の醸成

部活の幹部

①　剛毅な責任感　～　自責に堪える自己研鑽

②　重厚にして恭謙　～　人間としての実力

実力の貧寒な者ほど自己顕示

足下、自分を大切に

③　公正にして恕　～　客観的に寛大に

私心を去り物欲を遠ざけ

精神心情を純粋に

自分で考え　自分で行動する

(2)　非違非行に繋がる条件の排除

ア　弱さの自覚

イ　条件の排除

ウ　組織としての人間教養

本気（しんみん）

本気になると世界が変わってくる　自分が変わってくる
変わってこなかったら
まだ本気になっていない証拠だ
ああ　人間　一度こいつをつかまんことには

「五省」（一日の行動の反省）

○　至誠に悖（もと）るなかりしか
○　言動に恥ずるなかりしか
○　気力に欠くるなかりしか
○　努力に憾（うら）みなかりしか
○　不精に亘るなかりしか

◇　行いに悔ゆることなかりしか
◇　礼儀に欠けることなかりしか
◇　誠意に欠けることなかりしか
◇　感謝と奉仕の精神に欠けることなかりしか
◇　率先の勇気に欠けることなかりしか

□　口舌に終わっていないか
□　易きについていないか
□　勇気に欠けていないか
□　自己中心になっていないか
□　国家・人類を忘れていないか

（「現代に生かす海軍名言録」上村嵐著より）

集団暴行・早大サークル

「声かけ役 | 飲ませ役 …段取り

介抱装う悪らつ手口

早大二年の和田真一郎容疑者(20)ら五人が傷害罪に問われた女子大生集団暴行事件で逮捕された同大のサークル「スーパーフリー」(今月二十二日に解散)は、名古屋や大阪など全国に五支部を置き、二千人規模のパーティーを毎月のように開いていた。学生たちには「スーフリ」の名で有名で、同じ女性被害者に「危険だと思いながらも、楽しかった」と答えた女子大生もいた。捜査員は「事件発覚まで被害の相談がなかったのが不思議なくらい」と首をかしげる。

代表ら5人が強姦容疑で逮捕された早大の学生サークル「スーパーフリー」のパンフレット

名古屋、大阪にも支部

毎月、2000人パーティー

■ 事件「スーパーフリー」の集団暴行事件「スーパーフリー」代表で早大二年の和田真一郎容疑者ら早大生三人と、学習院大、日大の学生計五人が、先月十八日夜、東京・六本木の繁華ビル内で女子大生に乱暴したとして、強姦容疑で逮捕された。一次会の席で、酒に酔った女子大生を「介抱する」と言って店外に連れ出し、強姦の現場で暴行していたという。

スタッフも参加した女子大生の話では、「スーパーフリー」のパーティーは、入り口でスーツ姿のスタッフが丁重に出迎え、気付いの男が気に入った女性を見つけると、代表の和田容疑者らが呼び取る「VIPルーム」へと誘導していた。

裏庭で開かれたパーティーに参加した女子短大生(19)は、「男の人に次々と声をかけられた。目的はほとんど女性狙いだった」と話した。

パーティーチケットの販売にはノルマがあり、スタッフは客層に応じて「ボーイ大」「二軍」「一軍」などと三段階に分けられていた。上の者は「上司」と呼び、上下関係も厳しかった。あるスタッフは「チケットのノルマが達成できず、和田代表に殴られた」、別のスタッフは「関西でも女性への暴行があった」と話した。

パーティーの後には決まって二次会が用意され、女子大生らに参加を呼びかける「声かけ役」、女性を酔わせる「飲ませ役」、女性を一緒に来た友人と引き離す「分断役」など、細かく役割が分かれていた。

二次会などでは、思いをつけた女性のグラスに強いウオッカを混入することもよくあり、女性が酔うと「介抱」と称し、外に連れ出して暴行していたという。あるスタッフは「和田代表らは集団暴行を『チームワーク』と呼んで誇らしげなかった。いつか捕まると思っていた」と話した。

「スーパーフリー」は、一九八二年に同大で結成され、和田容疑者は九五年ごろから代表を務めていた。

和田容疑者は一九九四年に同大政経学部に入学したが、二〇〇〇年三月に学費未納で退学。二〇〇一年になって同大第二文学部に入学していた。

スーパーフリーには、早大のほか、国立大や、有名私大の学生が加わり、学生のイベントサークルでは突出した存在として知られていたという。

一方、和田容疑者ら三人が逮捕された早大には、連日、メールや電話で抗議、問い合わせが殺到しているという。

大学側は、この二十日のような社会的影響を厳しい姿勢で臨む」文書を掲示。二十三日、学生ら約五万人に対し、学生としての品位を守り学に協力していただきたい」と、学生部長名のルを通った。

一部容疑者、暴行認める

警視庁は強姦容疑で逮捕された和田容疑者ら五人は、当初は「合意のうえだった」などと容疑を否認していたが、一部が容疑を認めていて、捜査一課から性犯罪などを専門に扱う捜査員の応援を受け、取り調べを続けている。調べには、五人の逮捕容疑とは別に十数件の相談が寄せられており、同庁は実態についても捜査する方針だ。

同庁は、集団暴行事件は「スーパーフリー」幹部らによる組織的な犯行とみ四件で暴行しました」などと容疑を認めはじめた。

早稲田、学習院、日大生ら5容疑者

女子大生に集団暴行

主催パーティー二次会で

主催するパーティーに参加した女子大生に集団で暴行したとして、警視庁麻布署は十八日までに、東京都豊島区高田三、早稲田大二年でイベントサークル「スーパーフリー」代表の和田真一郎(28)、横浜市東区西が岡二、学習院大一年小林大輔(20)、神奈川県茅ヶ崎市今宿、日大三年藤村剛(21)の三容疑者ら、私大生計五人を婦女暴行容疑で逮捕した。

調べによると、和田容疑者ら五人は、先月十八日午後八時半ごろ、東京都港区六本木の雑居ビルにある居酒屋で飲食中、酔っていた女子大生を店外に連れ出し、ビル内の階段付近で集団で暴行した疑い。

和田容疑者が代表を務める「スーパーフリー」は、この日午後三時ごろから「有名私大生が集まる」というふれ込みでパーティーを開催、終了後の午後六時すぎから、近くの居酒屋に場所を移し二次会を開いた。この二次会には約二十人が参加、五人は見張りを立てて女子大生を暴行したという。

女子大生は「五人を厳罰に処して欲しい」と、その日のうちに麻布署に被害届を出した。五人は「合意の上」と容疑を否認しているという。

「スーパーフリー」は、一九八二年に早稲田大のイベント企画サークルとして発足した。サークルのホームページは「すてきな出会い」をうたい、様々な大学の学生がイベントに参加しているという。

◇

私大生による集団暴行事件は後を絶たない。一九九九年七月には慶応大医学部の学生五人が女子大生を暴行、同年十月には中央大生らが女子中学生を集団暴行したとしてそれぞれ逮捕された。

このほか、東京都内では今月十七日、知人の少女(18)にテレクラで知り合った男性(37)とみだらな行為をさせ、それにつけこんで恐喝した日大三年生(20)ら五人が渋谷署に逮捕されている。

和田被告 2審も懲役14年

スーパーフリー集団暴行事件 「悪らつ集団、率先」

イベントサークル「スーパーフリー」の集団暴行事件で、準強姦に問われた元代表の和田真一郎被告(30)(早稲田大を退学処分)の控訴審判決が2日、東京高裁であった。山崎学裁判長は「悪らつな犯罪集団と化した団体の代表として、率先して犯行に及んだ」と述べ、懲役14年とした一審・東京地裁判決を支持し、和田被告の控訴を棄却した。

判決は「絶大な発言力と影響力でメンバーを統制し、犯罪的に犯行を繰り返した」と指摘。「思いを遂げた女性に集中的に酒を飲ませており、犯情は悪い」と述べた。

判決によると、和田被告は後のメンバーと共謀し、2001年12月に東京都豊島区の自宅で、酔わせた計4人の女子大生に暴行した。

一連の事件で計14人が起訴され、和田被告以外はすでに実刑が確定している。

◇

「(一審の懲役14年は)重すぎるのではないか」。4月に行われた第一審の被告人質問で、和田被告は、ナンバー2とされる元社員(29)(懲役7年8月が確定)との量刑の差に不満を示し、「毎日、被害者の苦しみを想像しようと努めている」とも述べた。

しかし、被告は、和田被告が上申書の中で「(1審判決が)被害者に寄り添っていないとしたのは思い入らない」などと書いていることも明らかにし、反省の態度に疑問を示していた。

元京大アメフト部員集団暴行 1人実刑、2人猶予

東京大のアメリカンフットボール部「ギャングスター」の部員3人による集団強姦(ごうかん)事件で、強制わいせつ致傷罪に問われた元農学部生の白井孝平被告(23)、元工学部生の戸島剛被告(22)の控訴審判決が26日、東京高裁であった。氷室眞裁判長は被告側の控訴を棄却し、懲役7年の実刑(求刑・懲役8年)、白井被告に懲役5年、執行猶予5年(同・懲役6年)、戸島被告に懲役2年6月、執行猶予5年(同・懲役4年)を言い渡した。判決によると、3人は昨年12月23日午前2～3時ごろ、戸島被告のマンションの部屋で、一緒にパーティーをしていた女子大生に睡眠薬を飲ませて酔わせ、乱暴。池口被告は翌日午前3時40分ごろ、懲役7年)、白井被告に懲役5年、執行猶予5年(同・懲役5年)、戸島被告に懲役2年6月、執行猶予5年(同・懲役4年)を言い渡した。判決によると、3人は昨年12月23日午前2～3時ごろ、戸島被告のマンションの部屋で、一緒にパーティーをしていた女子大生に睡眠薬を飲ませて酔わせ、乱暴。池口被告は翌日午前3時40分ごろ、被害者になっていた別の女子大生に乱暴した。

早大ラグビー部 部員と監督処分

「2年前に不祥事」

早稲田大学は二十四日、二年前のラグビー部の合宿期間中に、「四年生部員が男女部員を殴ったり、暴行強要したりするなど、よきわしくない行為があった」として、この部員と白井野弘監督を十月末日、部員部員とすると発表した。また、当時の石塚武生部長についても同部の役員の資格を二年間停止した。

早大では、この部員が二年前の合宿中に女性をレイプしたと一部週刊誌に報じられたことから、調査委員会を設置して調査した。女性本人が暴行を否認、被害は確認せず、「暴行の事実は認められなかった」とした。

調査委員長を務めた法政大・早大体育局長は「内部調査の結果。一方的な暴行と断定されても仕方がない」と説明している。

京大名門チーム汚点

アメフト元部員集団暴行

水野監督「裏切られた」

「スポーツマンとしてルールは絶対なのに、裏切られた気持ちだ」。文武両道の象徴的な存在だった名門・京都大アメリカンフットボール部の元部員3人による女子大生への集団暴行事件。未成年の入学人数順位を最上位、日本一にまで押し上げてきた左野栄二監督は怒りの写真会見で、厳格な指導を繰り返すように語った。大学の運動部やサークルの学生による問題の事件が後を絶たず、伝統の看板からは「京大ならも対。警察にしなければ！……」とショックを隠せていた。

鍋パーティーで焼酎ルーレット

京都府警によると、事件は今年2月、東京都内のワンルームマンション。被害者の看護師、白井亜紀さん（仮名）が知人の19歳の女子大生だ、「鍋パーティーをしようよ。こっちは3人やから、あと2人を誘ってね」と言ったという。

当日、鍋を食べた後、机の上で捨てられた焼酎の瓶を回して、先に倒れた人が一気飲みをする「焼酎ルーレット」というゲームを始めたらしく、夜遅にはアルコール類の空瓶が大量に散乱していた。3人は酔を引き連れ、同級のパーティーを数回開いていたという。

関西学生アメリカンフットボール連盟によると、ラインニングバック（RB）の太田（仮名）は、昨年リーグ戦7試合中4試合に出場し、リーグ18位となる通算14ポイントを獲得し、初出の神戸大戦ではタッチダウンを挙げた。白井亜紀さんは攻撃ラインの中心となるセンターとしてリーグ戦1試合にスタメン出場、他の高校時代はバスケットボール部員だったという。

2年の時にはけがをしてから試合に出ていなかった。3人は昨年秋に決まっていた。

京都大で29日行われた記者会見には、平沢修三・副学長が出席（学生部担当）ら3人とともに、アメフト部のカリスマ的指導者、水野監督が姿を現せず、「裏切られた」などと厳しい言葉を連ねた。

「ルールを守ってきたからこそ学生たちが、こういう行為をするのは人間失格だ」と告発の言葉を浴びせた。

1988年から指導を続けてきた水野「チーム外出で監督するつもりはなかった」と嘆く一方で、「選手が自覚し、道徳しないよう、厳しい指導をしてきたなかった。シーズンや、部員は酒も飲まず、デートもせずにアメフトだけの生活。引退で気が抜けて、羽目を外したのか」と同情をかんだ。

事件の詳細については「早く公表しなければならないが、被害者の方が受けたりすれば傷むという問題はない」とし、「チームが誇りを持っており、連帯責任で不祥事が起きるのは絶対に許せない。今後の部の運営は選手が考えることに、と、選手の自主性にゆだねる考えを示した。

一方で、捜査当局者は、逮捕された3人について、「事件発生の時点で処分することになる」と言う。事件を起こしてしまったそれぞれの将来をも考えるべきだ」と強調した。

京都府警は、「被害者の処分を厳しくしたい」とした。

京都市左京区の吉田キャンパスの北約400メートルにある運動部用のクラブハウス脇半の建物内で最大人が出入りするアメフトチームマネジャーの女性（3年）は「厳しい指導は知られていない」といっていた。

今回の事件は、他大運動部指導者にも衝撃を与えた。天理大ボクシング部元監督で、全国大学ボクシング連盟理事の吉田光雄さんは「学生の指導を通じて、人間性を高める場」と強調した。

学生の同種事件 続発

大学の運動部やサークルの学生が集団でわいせつ行為や暴行をした事件が相次いでいる。

2003年に起きた、早稲田大のイベントサークル「スーパーブリー」（解散）による集団暴行事件で、関係した早大生ら14人全員の刑事処分が決定している。

04年8月には、国士舞大サッカー部の男子学生ら15人が強制わいせつ罪などで逮捕された。

1回目の暴行事件を起こし、昨年1月に暴行の刑法犯で、「4年以上の有期懲役」を定めた「集団暴行」が適用された。

スーパーブリーの集団暴行事件を起こし、昨年1月に暴行の刑法犯で、「4年以上の有期懲役」を定めた「集団暴行」が適用された。

1回目の暴行事件で、被害者の通報も「2年以上」から「3年以上」に引き上げられた。

集団心理が怖い

大相撲の元幕内力士で、東海学園大相撲部監督の恵那海兄さんの話「信じられない。逮捕された部員は自分たちが常に見られる立場だということをどうとらえていたのか。私のクラブは部員13人だが、寮を含めると声を掛け、情報交換に努めている。ただ、酒を飲んで羽目を外している時など、学生の集団心理が怖いと思ったことはある」

選手の誇り薄い

筑井盛・東大名誉教授の話「スポーツ選手としての誇りが薄くなっているのではないか。周囲からちやほやされる存在だっただろうし、思い上がりがあったのだろう。総じて最近の学生は幼いため、大人として扱うのではなく、情けないが、厳格から教育していかなければいけ

強豪むしばむ不祥事

京大生集団暴行

退部恐れ甘い指導

選手側管理嫌う傾向

体育会系大学生の不祥事が止まらない。学生主体を基本、日本一を目指すはずの京都大学アメリカンフットボール部も、夢の舞台にのぼれた。学生スポーツ界に、どんな問題が潜んでいるのか。事件を追った。

スキャナー SCANNER

[illegible]

[illegible]

広がる波紋 各大学が防止策

[illegible]

学生の不祥事に対する各大学の取り組み

立命館大	アメフト部全員に事件の内容を知らせ、自覚を促すメールを送信
関西学院大	2月1日のアメフト部の全体ミーティングで注意喚起
同志社大	滋賀県同窓の指導者を増やし、学内で月2回、学生の悩みや生活の相談にのる
早稲田大	新入生ガイダンスでモラルを説明、教授による指導行為への注意呼びかけ
慶應義塾大	法令順守、情報開示などの全学の担当者を設置、不祥事が起きる背景などを分析
日本体育大	学生らによる学友会が自浄機能を検討
北九州市立大	小冊子を配布し学生に自覚を問いかけ
中京大	新入生受け入れを担当する監督全員で学生部長がルール、マナーを守るよう説明
静岡大	部員が飲み会などにセクハラをしないなど注意事項を年2回文書で通達

[illegible]

学生犯罪 苦悩の大学

倫理教育どこまで

プログラム模索

大学でも、命の大切さや人権尊重の意識をはぐくむ教育が必要なのか――。大阪府堺市の主婦殺害事件で、逮捕された三男の社会福祉士・吉田亮（24）が大阪大の現役学生だったことに、関係者は大きな衝撃を受けている。先月発覚した東大阪大（大阪府東大阪市）の男子学生ら7人に対するリンチ殺人事件でも、暴力行為容認で逮捕された1人のうち3人が現役の学生だった。頻発する大学生の犯罪に、大学側は苦悩を強めている。

衝撃 つぶやき

中央教育審議会委員の梶田叡一・兵庫教育大学長の話「これだけ学生の犯罪が増えれば、大学としても学生一人ひとりの生活状況を把握し、必要な指導をせざるを得ない。以前は、大学が生活指導するなど考えられなかったが、そんな時代となってしまった。でも、これは対症療法に過ぎず、大学だけで解決できる問題ではない。子どもを豊かに、自分を律することを学ばせるためにも幼稚園時代のつけが回ってきて、社会的倫理観や自己制御力の育成など人間のあり方を社会全体が根源的に見つめ直すべきだ」

生活指導 必要に

「倫理などに関する教育プログラムをできるだけ早く始めたい」。7日夜の緊急会見で、大阪大の遠田勝一副学長は厳しい表情で語った。事件を踏まえ、初等教育のあり方から、現代の家庭環境、社会のあり方までを念頭に入れたプログラムを取り上げ、来年度から実施する、という。

が、ごく基本的な倫理観や人格に関する教育が高等教育機関でどこまで必要なのか。「本来、国立大法人化研究者を養成したり、『和』という価値を形成したりする場。大学だけでなく社会全体で問い直し、解決の道を探らねばならない問題だが……」と、青木の色も浮かべた。

「命の大切さを教えるカリキュラムを取り入れ、学生の指導体制の強化に努める」。リンチ殺人事件の被害者と加害者が通っていた東大阪大の小山英彦学長も話す。教員や教育士の育成を目指しているだけに、事件を重く受け止めている。

その一方で対応を決めかねている。

昨年12月、アルバイト先の学習塾で小6女児を暴行した男子学生が通っていた同志社大（京都市）は事件後、学生の精神面のケアに乗り出し、少人数教育を導入した。が、関係者は「7万5千人の学生一人ひとりに目を配るのは難しく、不可能」と打ち明ける。

4年前にアメリカでスクールバス内の元同級生3人が殺傷された高校生の田中白出男・学生部長は「高校までに学んでいるはずの倫理観も、大学が教える必要があるのか」と疑問を投げる。

イベントサークル「スーパーフリー」の学生らによる集団暴行事件（2003年8月）を受け、早稲田大（東京）は以前から新入生のガイダンスやクラス担任制の活用、保護者懇談などの対策を取った。が、担当者は「有効かどうかの検証はこれから」という。

大学生への倫理教育に対する文部科学省の動きは鈍い。同省は法制度に学ぶ教育機関である以上、犯罪者にならないよう問題意識は持ってほしい、と「意識」としながらも、学の自治」を理由に具体的な指導はしていない。